

議会報告・意見交換で出された主な意見及び感想等
(令和8年6月25日開催)

1 議会報告で出された主な意見

(1) 建設費用に関する意見

ア 立派な議場が市民に開かれた場所になることはよいことであるが、整備に当たっての予算はどの程度か。

【回答】

松本市役所新庁舎建設基本計画改定版では、議会機能を含むⅠ期の新庁舎建設工事費について、概算で45.0億円とされている。

ただし、この金額は設計前の段階における見込みであり、決定額ではなく、今後、設計段階において詳細に精査されるものである。

(2) 市民利用に関する意見

ア 多額の税金を投入するからには、市民が使える場所として考えてほしい。

イ 市民が使える場所になれば、議会と市民との距離が縮まるのではないか。

ウ 催し物やイベントなどに活用できる議場として検討してほしい。

2 意見交換で出された主な意見

(1) 傍聴しやすさ

ア 傍聴者の立場に立った議場にしてほしい。

イ 議員及び理事者双方の顔が見える傍聴席がよい。

ウ 席の間隔を広く取り、座りやすくしてほしい。

エ 若者や学生が気軽に来られる議場にしてほしい。

オ 傍聴席に机がないため、筆記スペースがほしい。

カ 報道席の机が高すぎるため、高さを調節できるとよい。

キ 議場の室温をインターネット上で確認できるようにしてほしい。

ク 空調の状況やコントロールについて、傍聴者にも分かるように表示してほしい。

(2) バリアフリー化

ア 階段が見えにくく、段差が危ない。

イ 車いす利用者の傍聴席が低すぎるため、他の傍聴者と同じ条件で傍聴できるようにしてほしい。

ウ バリアフリー化を重視してほしい。

エ スロープ化を検討してほしい。

オ 段差に配慮してほしい。

カ 傍聴しやすさとバリアフリー化を一体的に考えてほしい。

(3) 子育て世代への配慮

ア 子育て世代に対して、議会傍聴や議会施設について周知・PRしてほしい。

イ 小学生等が来ることも想定した議会施設にしてほしい。

ウ ベビーカー利用や、子どもの声が出ることを想定した環境づくりをしてほしい。

(4) ICT化

- ア 電子投票により、採決結果を分かりやすくしてほしい。
- イ 議場システムについて、性能を高め、故障しにくいものにしてほしい。
- ウ 議場全体を映し、議員の様子が分かるようなカメラ配置にしてほしい。
- エ オンライン傍聴について周知してほしい。
- オ オンラインで視聴する人が、複数のカメラ映像や画角を選択し、様々な角度から議場の様子を視聴できるようにしてほしい。
- カ オンラインで視聴する人にも、議場全体の様子や空気感、臨場感が伝わるように工夫してほしい。

(5) 議場の多目的利用

- ア オーケストラや落語など、議場の多目的利用を検討してはどうか。
- イ 学生議会で利活用してはどうか。
- ウ 主権者教育の場として活用してはどうか。
- エ 議会や議員の仕事を知る機会として活用してはどうか。
- オ 議場の用途は、議会の会議に限らず、一定の規定を定めた上で、市民が活用できる形を検討してほしい。
- カ 日常生活の中で、市民が議場に来てみよう、議会を傍聴してみようと思う機会は少ないため、議場を身近に感じてもらうきっかけづくりをしてほしい。

(6) その他

- ア 記名投票にした方がよい。

3 交流部会員からの感想等

(1) 意見交換の成果

- ア 参加者数は4人であったが、年代や立場が異なっていたことから、それぞれの視点による意見を聴取することができた。
- イ 市民の意見を直接聴取することの重要性を改めて確認できた。
- ウ 傍聴者目線による意見を、様々な視点から聴取することができた。
- エ 短時間ではあったが、貴重な意見が多く、議会側にとっても気付きがあった。
- オ 事前説明及び議場見学を行ったことで、参加者が意見を出しやすい流れになっていた。
- カ 市民意見共有シートを活用したことで、意見を取りまとめやすかった。
- キ 付箋をテーマごとに色分けしたことで、意見交換時にテーマを意識しながら意見を聴取しやすかった。

(2) 参加者とのやり取りの中で印象に残った意見

- ア 傍聴者、市民目線で考えた議場づくりが必要である。
- イ 発言者がモニターカメラで映る場面以外は、傍聴席からは議員の後ろ姿や後頭部しか見えないため、傍聴席の高さや配置への配慮が必要である。
- ウ 傍聴席でメモが取れるミニテーブル等の設置を求める意見があった。
- エ 議場巡りに関心がある学生から、他市議会の議場写真を見せていただくなど、議場そのものに関心を持つ若者の視点を確認できた。

(3) 共有シートに記入できなかった意見

- ア 参加者の発言を交流部会員が聞き取り、必要に応じて付箋に記入したことから、共有シートに記入されなかった意見はほぼなかったと思われる。
- イ 傍聴者、市民目線で考えた議場づくりの必要性については、今後も確認すべき視点である。

(4) 運営上の評価・課題

- ア 議場見学の案内やまとめの発表など、交流部会員が臨機応変に対応できていた。
- イ 参加者が4人であったことから、世代が偏らないよう2グループに分けることができた。
- ウ 意見交換では、参加者が自ら付箋を記入するよりも、発言内容を交流部会員が聞き取り、付箋に記入する方法が有効であった。
- エ 議場見学があるため、最初から議場で開始する方法も考えられる。
- オ 参加者が資料を持たずに議員協議会室から議場へ移動する場面があったため、資料配布のタイミングや案内方法について検討が必要である。
- カ 最も大きな課題は参加者の確保であった。
- キ 周知に当たっては、「議会報告会」という名称よりも、「議会施設に関する市民意見を伺う場」であることが伝わる表現を前面に出した方が、参加につながった可能性がある。
- ク 今回の議題は、参加者にとってやや専門性が高い内容であった。
- ケ 閉会日午後3時以降の開催であったため、参加しにくかった可能性がある。

(5) 次回以降の議会報告会や意見交換会に向けて改善した方がよい点

- ア 一般質問の傍聴者に対し、傍聴後に付箋を貼ってもらうなど、議会報告会以外の機会を活用した意見聴取も考えられる。
- イ 今後、各種団体との意見交換の場などにおいても、意見聴取の時間を設ける、又はアンケートを実施するなどの方法が考えられる。
- ウ 障がい者団体など、議会施設の利用に関わりの深い団体から意見を聴くことも考えられる。
- エ 目的に応じて、論点を絞って意見を聴取する方法と、一定のテーマの下で自由に意見を出してもらう方法を使い分けることが考えられる。
- オ 議会報告会が形骸化しないよう、実施目的や必要性を確認する必要がある。
- カ 議会を身近に感じてもらい、議会の必要性を理解してもらうためには、議会報告会だけでなく、日頃の議員活動や議会活動との連動が必要である。
- キ 形骸化しない取組みとなるよう、実施方法を検討する必要がある。
- ク 普段から傍聴や議会報告会に参加してもらうため、分かりやすい広報や参加しやすい開催方法を検討する必要がある。

(6) 議会報告会の内容に関する意見

- ア 今回の議会報告は、議会施設というテーマが明確であったため説明しやすかった。
- イ 今後の議会報告会については、何を報告すべきかを検討する必要がある。
- ウ 市民が議会に関わる方法について、本会議や委員会の傍聴、オンライン配信や録画配信、陳情、請願、議会への手紙等を分かりやすく説明する資料がある

とよい。

(7) 議場の多目的利用に関する意見

ア 議場の用途は、議会の会議に限らず、一定の規定を定めた上で、市民が活用できる形を検討する必要がある。

イ 日常生活の中で、市民が議場に来てみよう、議会を傍聴してみようと思う機会は少ないため、議場を身近に感じてもらうきっかけづくりが必要である。